

平塚製造所 (HP) CSRレポート

事業内容: 航空機用部品、スポーツ用品、各種接着剤・シーリング材、コンベヤベルト、マリンホース、防眩材、その他各種工業品などの製造およびこれら製品およびタイヤに関する基礎研究および設計・開発・評価

敷地面積: 285,794m² (ハマタイト工場を含む)

従業員数: 2,435名 (2014年12月、協力社員含む)

所在地: 〒254-8601 神奈川県平塚市追分2番1号

相談・苦情などの受付窓口:
平塚製造所平塚総務グループ TEL: 0463-35-9501 FAX: 0463-35-9746



所長ご挨拶



久世 哲也

平塚製造所では「社会に対する公正さと環境との調和を大切にする」を規範に、横浜ゴムのCSRビジョン「社会からゆるぎない信頼を得ている地球貢献企業になる」の達成に向けた製造所方針・環境方針を掲げています。この方針の下、環境負荷の極小化に向けた発生量抑制への対応をさらに向上させると同時に、行政・地域の皆さまとさまざまな活動やコミュニケーションを通じて「地域になくならない防災や安全、環境浄化の機能を持った事業所に創りかえる」ことを目指しています。2014年度も「防災・安全レベルの向上」、「地域貢献」、「地域コミュニケーション」の3つを主体に、環境視点イベント「Think Eco ひらつか」の第6回開催による地域との交流、地域企業体や地域住民の防災訓練支援、従業員ボランティアによる地域への植樹・清掃活動、地域への苗木提供、第11回地域コミュニケーション会の開催などを実施しました。

また、自然環境の保護と地域の皆さまとの共生を目的に継続している「YOKOHAMA千年の杜」プロジェクトでは、既に2012年度に目標の30,000本の敷地内への植樹を完了しています。2013年度からは地域貢献および目的やノウハウの継承を主旨とし、地域において開催される宮脇方式の植樹会に従業員ボランティアや従業員家族が参加しています。またこれらの植樹会に、平塚製造所で育てた苗木の無償提供を行っています。

今まで製造所内に植樹した約30,000本の樹木が鳥類を中心とした生物多様性に及ぼす影響の調査を進めてまいりましたが、2013年度からはさらに生産活動に地下水を利用させていただいている金目川水系の生物多様性保全活動をスタートさせ、継続しています。

また地域貢献活動を促進するため、ボランティア事前登録制をスタートさせ、地域での諸活動に多くの従業員がボランティア参加しやすい環境づくりにも力を入れています。今後もこうした活動を継続する中で、平塚市の中心に位置する事業所であることを肝に銘じ、地域発展・共生に貢献していきたいと考えています。

組織統治

方針、課題の周知・共有

平塚製造所は複数の事業部、本部、工場が集まった複合事業所であるため、製造所全体にかかわる方針や課題の周知・徹底、コミュニケーション向上のため注意喚起を図っています。

製造所全体朝礼により、所長方針や安全・環境方針の周知、毎月の製造所会議において全部門長に対し、経営情報の説明、製造所の課題・トピックスなどの共有を製造所長自らが行っています。

また製造所に在籍する事業部長、本部長をメンバーとしたミーティングを製造所長主催で開催しており、製造所全体にかかわる課題について、事業や本部の壁を越えたコミュニケーション向上を図っています。

また全従業員にコンプライアンスカードを配付し、自らの行動がコンプライアンス上問題ないか、常に自己点検するよう求めています。

マネジメントシステムによる機能のレベルアップ

製造所全体にかかわる安全・環境については、安全衛生事務局、環境管理事務局が各部門と連携を取りながら、OSHMSやISO14001のマネジメントシステムを適正にまわすこと (PDCA) によりレベルアップを図っています。外部審査の受審だけにとどまらず、内部監査を計画的に実施し、指摘事項・要改善事項のフォローを行い、製造所機能の強化につなげています。

労働慣行

法令順守徹底のために、ハラスメント、個人情報管理など毎月テーマを決めて、部門ごとにコンプライアンス教育を実施し、従業員の知識と意識向上を図るとともに、働きやすい職場づくりに努めています。

また適正な労働時間実現のため、労働時間や休日・海外出張などを労

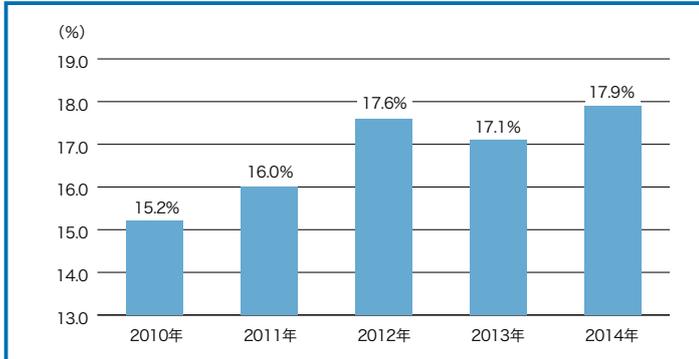
使でチェック、協議する場を設けています。同様に職場の環境改善についても毎年、労使にて改善項目を協議し、改善を推進しています。

このような対応により従業員が安心して勤務できる環境づくりを心掛けています。

男女平等の推進

男女の雇用機会の均等な提供に努め、性別に分け隔てなく本人の能力に応じて、責任のある仕事を付与しており、製造所のスタッフ全体における女性比率は増加傾向にあります。

スタッフ全体における女性比率

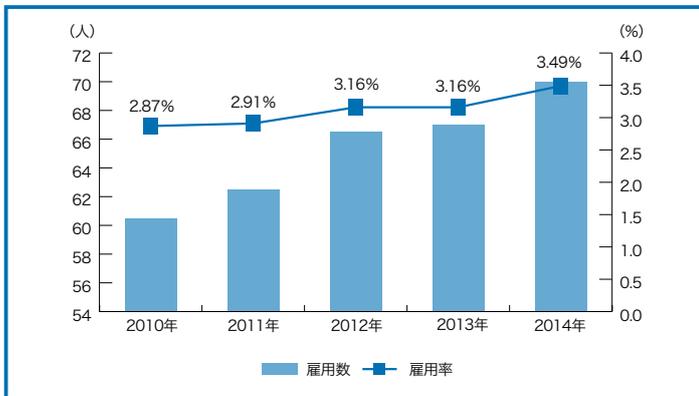


障がい者雇用の推進

障がい者雇用においては、2014年12月末時点で70名（重度障がい者のダブルカウント含む）を雇用しており、製造所の障がい者雇用率は3.49%（2014年12月末時点）となっています。

今後も、障がい者の就業機会の提供を積極的に行っていく予定です。障がい者雇用の特例子会社ヨコハマピアサポート（株）は事業所を平塚製造所内に構え、2012年4月から事業をスタートしています。2014年12月現在、知的障がい者を中心とした19名の障がい者が製造所内の清掃、社内メールの集配業務、植栽等の緑化業務などに従事しています。

障がい者雇用率



安全衛生管理

平塚製造所では2010年7月にOSHMS（労働安全衛生マネジメントシステム）を認証取得後、持続的にリスクアセスメント、KY（危険予知）活動等を主体としたOSHMSに基づく安全衛生管理に取り組んでいます。特に2013年度からは、多くの人の目で作業を観察して潜在的なリスクを洗い出す「公開作業観察」を展開し、より安全性の高い作業改善の対策を進めています。

また、安全衛生に関する法的要求事項を順守し、各種資格取得や教育活動を積極的に推進し、人材育成と災害防止に努めています。

労働災害

2014年度の労働災害件数は、前年度の25件から17件（休業災害1件、不不休災害11件、微傷災害5件）に減らすことができました。

このうち休業災害は、通勤時の事業所内での自転車同士の衝突事故で、

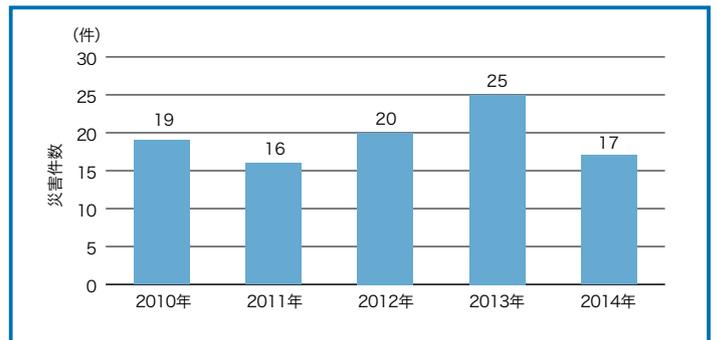
生産にかかわる重大災害につながる恐れのある休業災害は発生しませんでした。

また、災害の型別に見ると、「切れ」による災害が前年度の2件から4件に増加したほか、ハンドリング中の製品や部材にあたる「激突され」は前年度0件から4件に、化学物質などの材料と接触する「有害物との接触」は前年度0件から3件になり、危険予知不足による人的要因の災害が目立ちました。

このような背景を踏まえ、2015年度から平塚製造所の行動指針に「危険を予知して、手間を惜しまず、ルールを守って行動する」を掲げ、一人一人の安全意識向上を促進しています。

また、危険予知トレーニング（KYT4R法）やヒヤリ・ハット摘出による活動も継続的に進めています。

災害件数

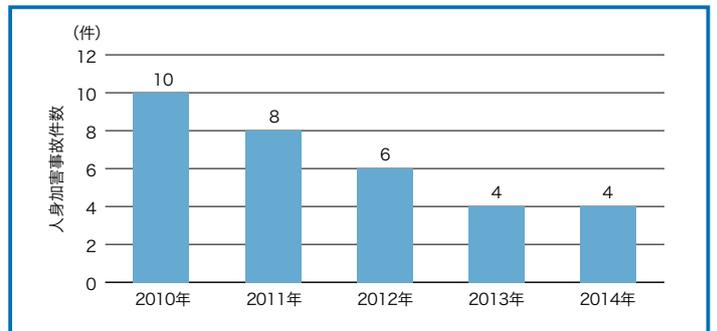


交通災害

2014年度は20件の人身災害にかかわる交通事故が発生し、残念ながら前年度の13件から大幅に増加してしまいました。

このうち、加害事故の件数は前年度と同じ4件で、2010年度の10件をピークに年々減少していますが、ゼロ化の目標は達成できませんでした。交通事故を減らすために、毎年2回全従業員向けに交通安全講習会を実施しています。2014年度は従来実施してきた平塚警察署の方による講話に代えて、実際に重大な交通事故を起こした加害者の方の事例から「悲劇に学ぶ」手記の展開や、インターネット上の教材による交通KYT（危険予知トレーニング）を実践しました。

人身加害者事故件数



そのほか、二輪車で通勤する従業員を対象にした交通機動隊白バイ隊員の指導による実技講習会や、自動車通勤者および公用自動車利用者、過去に交通事故を起こした人などを対象にしたシミュレーションによるセイフティビジョン診断を毎年実施しています。



二輪車実技講習会

また、2014年度は新たに交通問題研究・評論の専門家、矢橋昇氏による交通マナー講習会を2回実施し、譲り合い精神の醸成からの交通事故撲滅に取り組みました。



交通マナー講習会

健康管理

2014年度の7日以上長欠者数は43名で、2013年度より3名微増となりました。

このうち「精神障がい」にかかる長欠者が4割強を占め、全休業日数の約7割を占めました。

この対応として、2010年度から開始した専門カウンセラーによる毎月2日間計8回のカウンセリングを受け付けて、メンタルヘルスケアにあたっています。

また、職場の上司によるメンタルヘルスケア促進の一環として、年に2回の傾聴法講習会を実施しています。

環境マネジメント

平塚製造所は、1999年7月に取得したISO14001環境マネジメントシステム認証に基づく環境経営を継続的に運営しています。

2012年度からは全社統合の環境マネジメントシステムに移行していますが、横浜ゴム事業所の一つとして、全社環境方針に基づく活動を展開しています。

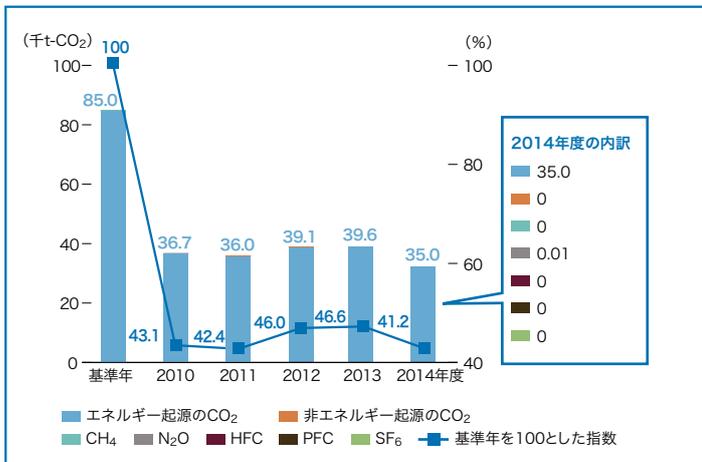
また、平塚製造所はMB関連事業の工場や全社の技術研究開発部門など、多岐にわたる事業本部組織を抱えているため、それらを10の環境ブロックに分けて、全社環境方針に準拠した平塚製造所環境方針の下、日々環境改善活動を進めています。

環境データ

温室効果ガス排出量の削減

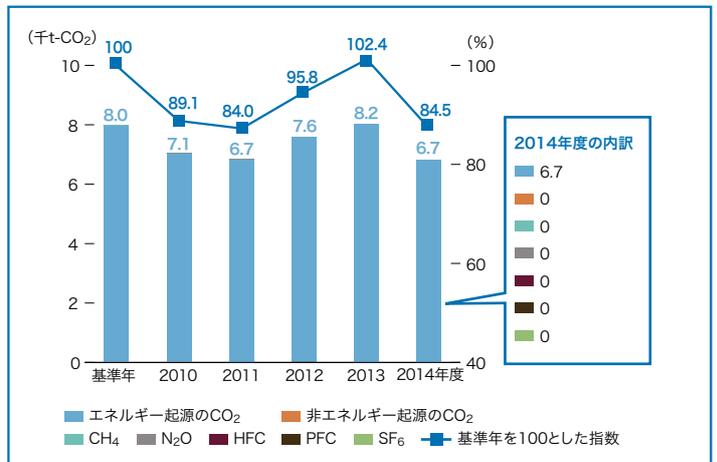
・温室効果ガス排出量

平塚製造所



※基準年：1990年を原則としています。京都議定書に準じてHFC、PFC、SF₆は1995年としています。
 ※温室効果ガス(GHG)の算定方法：環境省・経済産業省発行の「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」に準拠しています。
 なお、2009年度の電力購入からのGHG算定は、環境大臣公表の契約電力会社別実排出係数を使用しています。
 ※2011年度は決算期が4-12月となりましたので、2011年1-3月データを重複させて1-12月で集計しています。

ハマタイト工場



※基準年：1990年を原則としています。京都議定書に準じてHFC、PFC、SF₆は1995年としています。
 ※温室効果ガス(GHG)の算定方法：環境省・経済産業省発行の「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」に準拠しています。
 なお、2009年度の電力購入からのGHG算定は、環境大臣公表の契約電力会社別実排出係数を使用しています。
 ※2011年度は決算期が4-12月となりましたので、2011年1-3月データを重複させて1-12月で集計しています。

資源の有効活用/廃棄物の削減

・廃棄物データ



・水使用量



環境データ

■水・大気・土壌への排出対策

・水質汚濁にかかわるデータ

排水口	項目	規制値	自主管理値	2014年度実績		
				平均値	最大値	最小値
平塚製造所	PH	5.0~9.0	6.1~8.3	8.0	8.3	7.8
	BOD濃度 (mg/l)	600	200	36.8	78.0	3.0
	SS濃度 (mg/l)	600	100	32.6	64.0	11.0
	n-ヘキサン動植物油分濃度 (mg/l)	30	22.0	2.8	4.0	1.0
ハマタイト工場	PH	5.7~8.7	6.5~7.8	7.6	8.2	6.7
	BOD濃度 (mg/l)	300	110	59	120	19
	SS濃度 (mg/l)	300	150	43	82	19
	油分濃度 (mg/l)	30	8.9	3	6	1未満

※平塚市下水道条例に準拠

・大気汚染物質 (NOx、SOx)

項目	NOx排出量(t/年)	SOx排出量(t/年)
平塚製造所	14	—

施設名称	項目	規制値	自主管理値	2014年度実績		
				平均値	最大値	最小値
平塚製造所 1号~4号ボイラー	窒素酸化物濃度 (ppm)	150	90.3	71	74	68
	ばいじん量 (g/h)	371	4.3	2.3	3.0	1.5
平塚製造所 5号~6号ボイラー	窒素酸化物濃度 (ppm)	150	48.5	32	34	30
	ばいじん量 (g/h)	463	6.2	3.3	3.5	3.0
平塚製造所 コージェネレーション	窒素酸化物濃度 (ppm)	70	20	15	16	14
	ばいじん量 (g/h)	0.05	0.0043	0.0011	0.0014	0.0009
ハマタイト工場 1号ボイラー	窒素酸化物濃度 (ppm)	60	57	23.5	24	24
	ばいじん量 (g/h)	272	54	1.35	1.4	1.3
ハマタイト工場 2号ボイラー	窒素酸化物濃度 (ppm)	60	57	22.0	23	22
	ばいじん量 (g/h)	180	36	1.6	1.7	1.5
ハマタイト工場 エバラボイラー	窒素酸化物濃度 (ppm)	60	57	26.0	28	25
	ばいじん量 (g/h)	180	36	1.4	1.5	1.2

※大気汚染防止法、神奈川県条例に準拠

汚染防止

大気汚染や水質汚濁、騒音などにかかわる各種環境法令や条例による規制を順守するために、規制値よりもさらに厳しい自主管理値を設定し、監視測定を行っています。

残念ながら2014年度は下水排水において、水質測定値の1項目で条例の規制基準を超える汚水を排出してしまいました。速やかに所管行政に報告するとともに再発防止の措置を行いました。

また、近隣住民の方への騒音や臭いなどの感覚公害を発生させないように、社外モニターを設置して未然防止に努めています。

事業所内のPCB廃棄物については、法令に準じて適正に保管しています。2014年度は低濃度PCBが封入されているトランス5台の処理を実施しました。高濃度のPCB廃棄物およびそのほかの低濃度PCB廃棄物についても、2015年度以降順次適正に処理を進めていきます。

持続可能な資源の使用

ISO14001マネジメントシステムの重要課題に産業廃棄物、有機溶剤、CO₂排出量、水使用量の削減を掲げ、毎年前年度比総量での削減に取り組んでいます。

2014年度は産業廃棄物および有機溶剤の削減で目標を達成することができました。

気候変動の緩和と適応

2月の「省エネ月間」、6月の「環境月間」では、それぞれ重点取り組みを設定して成果の報告を行うほか、各ブロックの部門長による環境パトロールの実施、毎週2回の定時退社の徹底など、CO₂削減に取り組んでいます。

環境保護、自然生息地の回復

2013年度から、地域の金目川水系の水資源の保護を目的とした生物多様性保全活動をスタートしました。

2014年度も引続き、金目川流域の3つの地点でひと月おきに計5回のモニタリング活動を実施しました。

これまでの活動の結果、河原周辺では10種類以上のいろいろな種類の野鳥が観察でき、鳥類の生態は健全な状態であることが分かりました。川の中では、ハゼ類やモクズカニ、川エビなどの生息が観察でき、水生生物の生態も健全な状態であることが分かりました。一方、水質は透視度が高いが富栄養化の傾向があることが分かりました。現在は、川底に潜むトビケラ、トンボ、カゲロウの幼虫などの底生生物のスコアリングによる水質評価も進めています。

河原の植生については、オオバクサやアレチウリなどの外来植物が繁殖し、在来植物が衰退されつつある状況が分かり、初夏に外来植物の駆除活動を実施しました。

2015年度も引続き、同じ地点での外来植物の駆除活動を行い、河原の植生の変化を観察していきます。



生物多様性モニタリング調査



外来植物駆除活動

公平かつ公正な取引先の選定

工場資材については大手企業との取引だけでなく、積極的に地場の中小企業の採用を推進しています。また、その企業が従業員との私的な関係にないかも確認し、公正で公平な取引先の選定を心掛けています。

「購買行動規範」の制定と徹底

「購買基本方針」における公正、公平な取引を行う上で購買担当者が留意しなければならない事項、行ってはならない倫理上の問題を示すものとして「購買倫理（購買担当の心得）」を作成し、基本方針と併せ「購買行動規範」として制定しています。

2014年度平塚製造所では、資材調達担当者だけでなく、社外との折衝窓口となる全担当者を対象に「下請ガイドライン説明会」を開催しました。また、より幅広く受講をさせるべく、初心者コースと中級者コースを用意し、100名を超える担当者が受講しました。



下請けガイドライン説明会

取引先へのCSR活動の展開

2014年は、3年目を迎えた「CSR取引先勉強会」にて、「企業の不祥事」を取り上げ、最近の企業の不祥事の傾向や発生する経緯等の事例を交えながら、取引先と問題の共有化を図りました。

平塚製造所では、昨年を上回る85社、98名の取引先の皆さまにご参加いただき、最近のコンプライアンス事情への関心の高さを再認識しました。

また、昨年よりスタートした「お取引先さま表彰」として今年度は、社会貢献活動を主眼に341社からのアンケートを基に「社会貢献活動優秀企業賞」を1社（3月末現在）表彰しました。



CSR取引先勉強会

消費者課題

各工場内で使用する事務用品は、GPN（グリーン購入ネットワーク）データベースに掲載されているエコ認定商品を中心に購入しています。その購入比率は90%を継続しており、持続可能かつ環境負荷の低い製品の購入を実践しています。

コミュニティへの参画及びコミュニティの発展

地域貢献活動

2013年4月からスタートしたボランティア活動事前登録制を運営し、2014年度は地域の植樹活動への参加など、延べ4回の活動を行いました。現在登録者は110名を超えています。



湘南国際村めぐりの森植樹

防災活動

平塚市危険物安全協会の主催する消火競技大会に平塚製造所から5チームが参加し、大会競技の3つの部門のうち、屋内消火栓操法男子の部で準優勝の成績を収めました。

防災協定を締結している隣接する平塚盲学校の大規模震災避難訓練に参加し、車椅子の生徒や負傷者の搬送支援を実施しました。

また、同じく隣接する平塚共済病院との防災協定に基づき、連絡路からの初期消火活動の確認を行いました。



平塚市消火競技大会



平塚共済病院防災支援隊訓練支援



平塚盲学校防災訓練支援

地域イベント参画

毎年平塚市の主催で開催される「ひらつか環境フェア」に参加し、平塚製造所の環境の取り組みの紹介と、苗木の無償提供を行いました。

地域貢献

- ・ 地元のJリーグチーム「湘南ベルマーレ」に地域貢献として、CSRパートナー契約を継続し、相互に諸行事へ参画しています。
- ・ 毎月1回、製造所外周を従業員が清掃活動を実施しています(2014年度延べ481名)。



外周清掃

地域交流

・ 地域住民や行政、NPOなどとコミュニケーションを図るための見学会(地域コミュニケーション会)を開催し、平塚製造所の活動を地域にご理解いただくとともに、地域の方々のご意見を頂戴する場としています。2014年度からはアンケートへの回答を参加者全員に協力していただいています(2月)。

・ 環境イベントとして「第6回Think Eco ひらつか2014」を開催。地域の大学や活動団体のご協力を得て、2,900名の地域住民や従業員の家族に参加いただき、収益金と募金を東日本大震災義援金として寄付しました。(11月)



Think Eco ひらつか2014

2014年度 地域貢献・コミュニティ活動一覧

■ボランティア活動

- 2月22日 神奈川県千年の森植樹 10名参加
- 3月9日 花水川土手清掃(金目川水系流域ネットワーク協働) 23名参加
- 5月6日 第9回湘南国際村めぐりの森植樹 13名参加
- 毎月事業所周辺歩道の清掃活動 延べ 481名参加

■YOKOHAMA千年の杜 苗木提供(合計6,458本)

- 1月29日 平塚市内リトルリーグ卒業記念植樹 8本
- 2月1日 東駿河湾環状道路三島玉沢IC植樹 130本
- 2月22日 神奈川県千年の森植樹 460本
- 3月8日 東京都豊島区植樹 40本
- 3月9日 ひらつな祭(平塚市) 140本
- 4月19日 岩手県大槌町平成の杜植樹 560本
- 5月6日 第9回湘南国際村めぐりの森植樹 320本
- 7月8日 進和学園寄贈 2,300本
- 8月7日 ひらつか環境フェア 40本
- 9月25日 宮城県岩沼市希望の丘植樹 1,000本
- 11月8日 進和学園寄贈 880本
- 11月15日 Think Eco ひらつか2014 580本

■地域交流

- 2月11日 地域コミュニケーション会 60名参加
- 11月15日 Think Eco ひらつか2014 2,900名来場

■学校教育支援

- 10月20日 崇善小学校どんぐり拾い 1年生120名参加
- 10月28日 崇善小学校交通マナー教室(講師:矢橋昇氏) 4年生向け
- 11月11日 同上

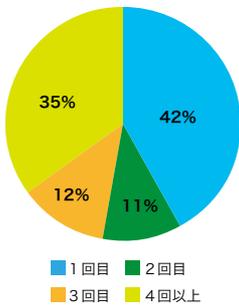
■地域行事への協賛、寄付、出展

- 4月26日 かながわデザイン機構 ユニバーサルカー活動協賛
- 7月4日 ひらつか七夕まつり 七夕飾り出展
- 7月30日 平塚市美術館 横山大観展示会寄付
- 8月22日 湘南ひらつか花火大会協賛
- 10月23日 湘南ひらつかテクノフェア出展

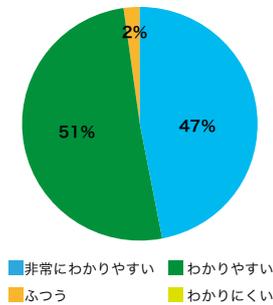
■防災活動

- 5月29日 平塚市危険物安全協会 Cブロック防災訓練 11社、127名参加
- 10月14日 平塚共済病院防災支援隊訓練支援 24名参加
- 11月4日 平塚盲学校防災訓練支援 12名参加

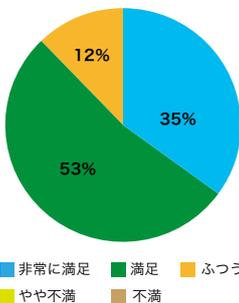
これまでの参加回数



説明内容について



施設見学コース・内容満足度



地域コミュニケーション会満足度

